

言語能力を統合して解決する問題②における結果と分析

以下は言語能力を統合して解決する問題②の結果と分析である。左の表は令和3年6月の取組実施前に行った検査結果であり、右の表は令和4年2月の取組実施後に行った検査結果である。1年生については、その発達段階を考え、令和4年1月にのみ検査を行った。

表1 1年生の結果（令和4年2月） 単位：%

問題	1	2	3	4
◎				49.5
○	88.9	85.9	40.4	18.2
△	11.1	2.0	29.3	26.5
×	0.0	12.1	30.3	8.8
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

○ 全体の通過率 63%

③は情報を比較，選別しながら正確に読み取る力，④は読み取った情報を基に自分の考えを表現する問題である。1年生という発達段階では難しい問題であったが，高い通過率であると考えられる。さらに高めていくためには，経験した事象を言語化することや実際の問題場面での状況把握，判断等の経験を積み重ねていくことで，自分にとって必要な情報を取捨選択する力を育成していくことが必要である。

○ 問題①の通過率 88.9%

問題にあるイラストと問題文を対応させ，情報を正確に読み取る問題である。選択肢の中から合っているもの全てを選ぶ問題で，正答が2つあった。1つだけしか選択していない児童が11.1%いたことから，問題文の「全てに」を読み落としていると考える。ただし，1つも答えられていない児童はいなかったことから，情報を正確に読み取る力は高いと考える。

○ 問題②の通過率 85.9%

挿絵から読み取ることができる事柄について記述するのではなく，普段の生活経験から想像して解答している児童が12.1%いた。つまり，問題にあるイラストと問題文を対応させ，情報を比較し読み取る力に課題がある児童がいた。問題と生活を切り離して考えることができない発達段階の児童がいることを教師が把握しながら，継続して個別指導していく必要がある。

○ 問題③の通過率 40.4%

4枚のイラストから雨の日の過ごし方を表している2枚を選別し，その注意事項について理由を添えて記述する問題である。通過率が40.4%と半数以上が間違っていることから，情報を比較し選別しながら正確に読み取る，更にはそこから問題場面の文脈に即して判断する力に課題があると考えられる。

○ 問題④の通過率 49.5%

遠足の前日に雨が降っていることから，次の日に持っていった方が良いものを，理由を添えて2つ記述する問題である。2つ記述できていたものを◎，1つしか記述していなかった準正答を○として採点している。両者を含めると通過率は67.7%となることから，問題文を読み取ったことで得られる情報を基に，自分の考えを表現する力はある程度高いと考える。

表2 2年生の結果(令和3年6月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	90.8	56.1	8.2	64.3
△			85.7	8.2
×	9.2	43.9	6.1	27.6
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

表3 2年生の結果(令和4年2月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	98.0	64.3	▲59.2	▲87.8
△			12.2	9.2
×	2.0	35.7	21.4	2.0
無答	0.0	0.0	7.1	1.0

※6月より10%以上差異がある値は△(増加)か▽(減少), 20%以上なら▲(増加)か▼(減少)

○ 問題内容について

問題①は, 上部の絵図を読解し, 内容に合う会話を探す問題である。問題②についても, 同絵図を読解し, 内容にあう正しい文章を選ぶ問題である。問題③は, 絵図を読解したうえで, その中で被験者が行いたい行動を絵図の中から選び理由を述べる記述問題である。問題④は, 自分の体験から推測して記述する問題である。

○ 問題①, 問題②について

問題①の差が7%, 問題②の差が8%であった。わずかに増加したということで, そもそもその差に優位性が少ない。さらに, 児童の生活の様子を見ると, 日常生活の経験が増え, 会話の際の理解の様子においても, 成長が見て取れる。ポイントの増加が, その成長によるものか, アカデミック・ライティングに関する指導によるものかは判別できず, 指導の効果については確認できなかった。

○ 問題③について

問題③は, 図1の上部の絵図を読解したうえで, その中で被験者が行いたい行動を絵図の中から選び理由を述べる記述問題であった。50%の急激な増加であるが, 次のような理由が考えられる。一つ目は, 自分の体験を聞かれているのか, 読解を聞かれているのかわかっていないことである。質問紙のページが変わっており, 問題文自体が, 「あなたは学校と公園のどちらで生き物を探したいですか。」と最初に来ていることから, 題意を間違っているとらえたため, 児童は自分の体験を記録している様子が多かった。1回目も2回目も多かったが, たまたま題意に合う回答が多かった。生活科や日常生活の経験と問題が重なったことにあると考えられる。

○ 問題④について

問題④は, 自分の体験から推測して記述する問題である。上部にある通り, 24%の増加が見られた。明らかな増加であるが, 被験者の経験が大きくかわる内容である。また, 5月の単純に書くというスキルの向上によっても, 答えられる量に変化が見られる。

○ 全体を通して

結果としては増加した点が多く見られるが, アカデミック・ライティング指導の効果とはとらえにくいところが多くある。新たな指標としていくには, 検査問題の改善を行っていかねばならない。また, 同じような集団で, アカデミック・ライティングの指導をしている集団としていない集団を比較する必要性も感じた。同一児童での時期をずらした検査ではあるが, 低学年になればなるだけ, 時期による成長の変化が大きく表れるため, アカデミック・ライティング指導の効果であるか判断できない内容も多い。別の近隣の学校に検査だけを依頼し, 変化を比較することができると, アカデミック・ライティング指導の効果がより正確に取れるのではないだろうか考える。

表4 3年生の結果(令和3年6月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	98.9	38.3	13.8	35.1
△			28.7	61.7
×	0.0	61.7	57.4	1.1
無答	1.1	0.0	0.0	2.1

表5 3年生の結果(令和4年2月) 単位:%

→

問題	1	2	3	4
○	94.7	△53.2	20.2	▲57.4
△			36.2	42.6
×	5.3	46.8	43.6	0.0
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

※6月より10%以上差異がある値は△(増加)か▽(減少), 20%以上なら▲(増加)か▼(減少)

○ 全体の通過率 46.5%から56.4%へ増加

約10%の増加。③は自分の立場を明確にし、そのように判断した理由を記述する問題であり、④は自分の考え仮説を検証するために必要となる調査方法を記述する問題である。根拠を明らかにして理由や自分の考えを述べる力が高まっていると考える。

○ 問題①の通過率 98.9%から94.7%へ減少

問題にあるイラストと問題文を対応させ、問題文に不足している情報をイラストから読み取る問題である。通過率は減少しているが、前回の通過率が98.9%であることを踏まえると、今回も高い通過率であると言える。前回は無回答の児童がいたが今回は無回答の児童はいなかった。

○ 問題②の通過率 38.3%から53.2%へ増加

約15%の増加。花子さんが予想したこととその結果を比べ、予想に合っているものを選択する問題である。花子さんの「どんな虫がいるか」という予想に対して、「つかまえることができた虫」だけでなく「見つけた虫」を選ぶことができているかが正答の鍵となっている。通過率が大きく増加していることから、問題の意図を理解し、必要な情報を選択する力が高まっていると考える。

○ 問題③の通過率 13.8%から20.2%へ増加

約6%の増加。「図かんに10種類の虫のをせること」について正しいか誤りかを判断し、その理由を答える問題であった。資料を読むと、さくらさんが「カブトムシもいるといいね」と話しており、そのことからカブトムシを図鑑に載せることは誤りであると判断しなければならない。通過率は若干の増加であるが、解答を見ると、誤答ではあるが、さくらさんの発言に着目して理由を記述しようとしているものが前回よりも約8%増えていた。資料から読み取った情報を基に理由を記述しようとしていることができる。

○ 問題④の通過率 35.1%から57.4%へ増加

約22%の増加。花子さんの予想に対する答えの調べ方を考え、記述する問題である。調べるために適した方法を自ら判断し、自分の考えを記述することができるようになったことはもちろん、総合的な学習の時間に取り組んでいる課題学習での学び(仮説を立てて、それに対する情報を調べていく学び方)を、今回の検査に生かすことができていると考える。

表6 4年生の結果(令和3年6月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	73.3	69.3	68.3	16.8
△			23.8	64.4
×	25.7	30.7	7.9	18.8
答	1.0	0.0	0.0	0.0

表7 4年生の結果(令和4年2月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	82.2	△82.2	△87.1	▲47.5
△			6.9	50.5
×	17.8	17.8	5.9	2.0
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

※6月より10%以上差異がある値は△(増加)か▽(減少), 20%以上なら▲(増加)か▼(減少)

- 問題番号①～④全ての通過率が増加 全体の通過率 56.9%⇒74.8%

特に③④は理由や自分の考えを記述する問題であり, ①②よりも増加率が大きい。その内容についても, 自分の考えを詳しく記述することができているものが増えてきている。また, 筋道を立てて論理的に述べることができている解答も増えてきており, 言語能力の高まりを感じ取ることができる。

- 問題①の通過率 73.3%から82.2%へ増加。

約9%の増加。2種類のポスターについて読み取られることが書かれた文章から正しくないものを見つける問題である。4文ほどの文章で, 一見どれも正しいことを書いた文章のように見えるが, 書かれている文章の単語一つ一つによく注意して情報を正しく読み取ることができるようになってきたと考えられる。

→資料から情報を正しく読み取ることができるようになったことで, 書かれている内容を整理して必要な情報を要約する力の高まりも感じる。

- 問題②の通過率 69.3%から82.2%へ増加。

約12%の増加。2つのポスターを比べて, 共通していることを見つける問題である。特に「どちらのポスターも大事なことを3つ書いていること」を共通点として挙げている解答が多かった。内容の異なる2つのものから共通点を見つける力が高まりがみられる。

- 問題③の通過率 68.3%から87.1%へ増加。

約17%の増加。異なる2種類のポスターのうち, どちらを教室に掲示したいかを選択し, その理由を答える問題であった。Bの新型コロナウイルスに関するポスターを選んだ児童は, 理由として現在の学校の実態を踏まえて記述することができていた。また, 災害時に関するAのポスターを選んだ児童は, 社会科で学習したことと関連させ, 災害時には学校が避難所になることや, 災害はいつ起こるか分からないことを理由として記述することができていた。いずれにしても, それぞれのポスターの内容を踏まえ, 自分が選んだ理由の根拠を明らかにして述べる力が高まったと考える。また, 表現する際に, 自分の考えが伝わりやすいような構成で記述することができているものも増えてきた。

- 問題④の通過率 16.8%から47.5%へ大きく増加。

約31%の増加。「地震が起きたらトイレを使わないこと」の理由として, ポスターの内容を踏まえて自分の考えを述べる問題である。トイレを使用しない理由について, 自分の予想や考えについて整合性がとれている記述であれば正答としている。6月の検査結果と比較すると, 多くの児童が「トイレがつまる」というポスターに書かれている内容を理由として選択することができていた。筋道を立てて論理的に説明することができている記述が増えたことは, アカデミック・ライティング指導における成果の一つとして挙げることはできるのではないかと考える。

また, 誤答の割合が18.8%から2%に減少していることから, 情報を正しく読み取り, 自分なりの考えをもつことができるようになったとも考えられる。準正答であった50.5%の児童の多くは, トイレがつまることによって, どのような影響が出るのかということに対して, 自分の考えを論理的に記述することができていないところに課題が見受けられる。

表8 5年生の結果(令和3年6月) 単位:%

問題	1	2	3	4
○	89.1	90.1	37.6	16.8
△			37.6	83.2
×	10.9	9.9	24.8	0.0
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

表9 5年生の結果(令和4年2月) 単位:%

→

問題	1	2	3	4
○	96.0	87.1	△50.5	6.9
△			40.6	92.1
×	4.0	12.9	8.9	1.0
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

※6月より10%以上差異がある値は△(増加)か▽(減少),20%以上なら▲(増加)か▼(減少)

- 問題①の通過率 89.4%から96.0%へ増加。

約6%の増加。問題①の情報の読み取りに関しては、もともと高い正答率であった。その中でも、解答例を見ると黄色の「目立つ、人の目には前方に飛び出して近く大きく見える、注意によく使われる」という色もつ効果や特性を基に記述を行うことが出来ているものが増えた。必要な情報を資料から適切に抜き出すことができていた児童も前期に比べ増えていた。端的に述べるだけでなく、要素を増やして書くことができることも言語能力の高まりと関係していると考えられる。

- 問題②の通過率 90.3%から87.1%へやや減少。

6月に比べやや2月が減少している。誤答を見ると、「ピクトグラムは、絵がシンプルだし、言葉がなくても分かりやすい」「色は基本2色」という文言を文章から読み取ることが出来ていない。これは、6月に同じ問題に取り組んだという慣れから文章を丁寧に読めていなかったことが関係しているのではないかと推察する。6月の時点で正答率が90%を超えており、これまでに情報の読み取りに関する力はある程度育っていたとも考えられ、アカデミック・ライティング指導の前後で、特に有意差が見られなかった原因であるとも考えられる。

- 問題③の通過率 37.6%から50.5%へ増加。

約13%の増加。誤答に関しても24.8%から8.9%に減少している。問題③はピクトグラムに用いられている「形」がもつイメージや特徴と、「色」がもつ効果や特性を組み合わせ、新型コロナウイルス感染症予防対策としてマスクの着用を呼び掛けるピクトグラムを作成し、なぜその形と色を選択したのかを答える問題であった。正答例を見ると、資料から読み取った情報を整理して記述しているものが増えていた。また、6月の検査では、資料を基にした理由を記述できていないものが多かったが、2月の検査では、ほとんどの児童が資料を用いてその理由を述べるできるようになってきている。アカデミック・ライティング指導において、自分の考えを述べる際に、根拠を明らかにすることの重要性を学んできたことがその要因として考えられる。

- 問題④の通過率 16.3%から6.9%に減少

色の効果や特性は述べることができているが、身近なものや自分の経験などから予想して、根拠を述べることができていなかった。問題④は『『白色』には、どんなイメージがあるのでしょうか。あなたの考えを予想して書きましょう。』という、資料にはない色に対して、自分の考えを身近なものや普段の経験から考えられることを根拠として、自分の考えを述べる問題であった。問題文からは、身近なものや自分の経験などから予想したことを基に、考えを書くのだと捉えることができなかつたことも考えられる。資料にない事柄や事実が不明確な事柄に出合った際に、どのようなことが考えられるのかという仮説を立てて考えていく力を伸ばしていくことが、さらに言語能力を育成していくことにつながっていくのではないかと考える。

表 10 6年生の結果(令和3年6月) 単位:%

問題	1	2	3	4
◎			15.2	16.2
○	61.6	34.3	69.7	29.3
△			10.1	24.2
×	38.4	65.7	5.1	29.3
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

表 11 6年生の結果(令和4年2月) 単位:%

問題	1	2	3	4
◎			11.1	▲44.4
○	70.7	△49.5	52.5	22.2
△			21.2	19.2
×	29.3	50.5	15.2	14.1
無答	0.0	0.0	0.0	0.0

※6月より10%以上差異がある値は△(増加)か▽(減少), 20%以上なら▲(増加)か▼(減少)

- 問題①の通過率 61.6%から70.7%へ増加。

問題①は、資料から読み取られるものとして間違っているものを答える問題であった。3人の子どもが各々資料から読み取られることを話しているが、その中の1人が2050年のCO₂排出量の数値を読み間違えている。正答率は約9%増加しているものの、全体の約70%に留まっている。資料の読み取りでは、数値を正しく読み取ることが重要になってくる。その数値を比較・判断したことが自分の考えの根拠につながるからである。資料を読み取る際に、何に着目し、どのように判断していけばよいのかということを変更して指導していく必要性を感じる。

- 問題②の通過率 34.3%から49.5%へ増加。

問題②は、問題①の理由を記述する問題であった。その通過率は約15%増加している。6月の時点では、問題①の通過率が61.6%であることに対して、問題②の通過率は34.3%であった。問題①が正答であったとしても、その理由が適切でなければ、本当に内容を正しく読み取ることができていたとは言いがたいところがある。問題②で誤答であったものの多くは、文章の意味が通じていなかったり説明不足であったりした。2月の検査では、理由を適切に記述することができているものが増えていた。しかし、自分の考えを論理的に分かりやすく説明するという点にはまだ課題があると考えられる。

- 問題③の通過率 ◎: 15.2%から11.1%へ減少。◎+○: 84.9%から63.6%へ減少。

問題③は、資料を読み取り、登場人物が読み取った「困ったこと」を論理的に説明できているものを正答としている。その中でも具体的な数値を基にして記述できているものを◎、具体的な数値がないものを○としている。その通過率は3.6%減少した。資料から読み取れる事実と、それが原因で引き起こされる「困ったこと」の因果関係が明確に述べられていない解答が目立った。また、資料の中にある文をそのまま引用していたり、具体的な数字や大事な言葉を落としたりしている解答も見られた。問いに対して、根拠を明確にして筋道を立てて説明することに対して、まだまだ課題があると言える。

- 問題④の通過率 ◎: 16.2%から44.4%へ増加。◎+○: 45.5%から66.6%へ増加。

問題④は、問いに対してどのような情報を集めればよいか、また、その理由を問う問題であった。正答率は16.5%から44.0%へと大幅に増加している。問題を解決するにはどのような情報を集める必要があるのかということを考え、その理由まで適切に述べているものが増えていた。これは、アカデミック・ライティング指導において、自分のテーマに対して問いを立て、必要な情報を集めるという経験を積んできたことが要因の一つであると考えられる。本校の取組である「鯨っ子学習」を続けていくことで、さらに通過率は増加していくのではないかと考える。